

落水きよひろ レポート



はじめに



皆さま方には健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年末には熊本市長選挙において第32代市長に大西一史氏が就任され、政令市熊本市の舵取りをされるようになります。

が注目されています。これからの政治・行政は、人口減少社会・超高齢少子化社会と、人類が一度たりとも経験したことのない事に立ち向かわなければならぬ訳ですから、その政策の優先順位を間違えれば子孫に途てつもない迷惑をかける事になる訳です。

あのバブルの時のお金で将来の国家経営を議論していれば、現在のようにな千兆円もの国家の借金に喘ぎ苦しむ事は無かったのにと、悔やまれてなりません。

せん。

さて、熊本市は3年前より熊本市政の10年計画である総合計画にも記載の無いMICE事業を推進しようとしています。私は計画が出された平成24年3月から一貫して計画のズサンさや費用対効果の無さ、さらには赤字経営による子孫に対する市の莫大な借金について繰り返しの指摘をしてきましたが、いまだ改められておりません。

しかし、私も初当選から27年、8年前には議長を歴任させていたいただきましたので、政治の力学はよく分かります。新市長も多くの団体や組織をバックに当選された訳ですから、その方々との様に調和を保ちながらも、ご自分の信念を貫いていけるのか、本当に『次の道』かと想像できます。

今回の議会報告書ではMICEを中心に税金の使途について、お話しします。

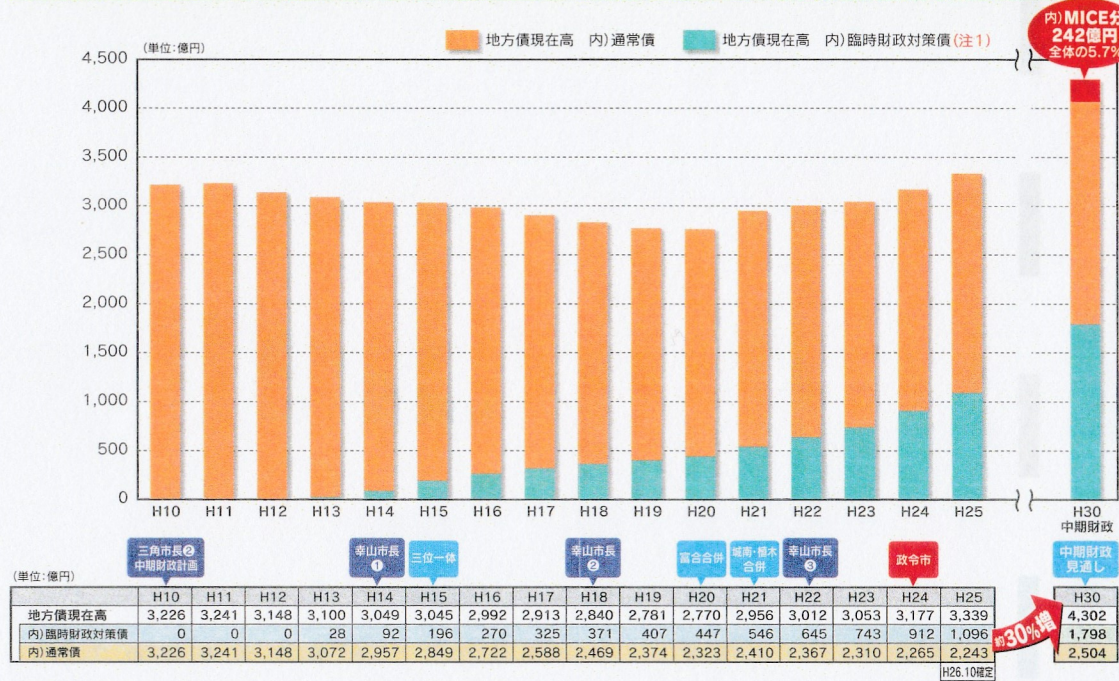
④市当局の公式文書である中期財政計画の5年後のH30年度決算額の数値では、29%も市の借金が増える結果となります。

市民の皆さんは、この借金の増え方を不安に感じられませんか？ 私は政治家だからかもしれませんが、夜も眠れない様に不安なのです。

また、この5年後の借金の内、57%は今回のMICE分なのです。

さらには、昨年末にもMICEの事業費がアベノミクスやオリンピック等の影響で相当増えそうなので、大西市長は予算の減額ができないか庁内及び関係企業とも相談されているようですが、抜本的な全面計画変更をするか撤退するしか、借金を減額する方法は無いと考えます。このまま全面見直しをせず突き進んで行けば、99%以上の市民が多額の税金の負担を強いられる事は明白です。それも未来の市民(子孫)も含めてです。

熊本市 地方債(借金)現在高の推移 (普通会計)



熊本市の借金が3割も増える!!

※注1) H26.10.2 熊本市議会予算決算委員会インターネット録画をご覧ください。(大西前議のH25.4.24県議会総務委員会議事録P15も参照)



人口減少社会問題の先駆者！

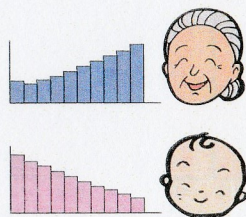
一昨年の人口問題研究所の本格的な人口減の発表により、マスコミを中心に日本全体で人口減少問題が話題となりました。熊本市においても昨年より本格的な対応策が実動し始めました。しかしそれは公共施設の老朽化等の対応に止まり、少子化対策やコンパクトシティへむけた公共施設の集約化には、マッタク手つかずの状態です。

私は4年前より議会において、この人口減少問題の行政における最大の試練となる、労働者人口減による『税収減』の対応を皮切りに、少子化改善のための『卵子の老化』等の義務教育界への情報開示及び出産適齢期女性への周知、さらには各小学校を中心とした公共施設の集約化と今後40年間かけての、熊本市という『都市のコンパクトシティ』化等の具体的提言をしてきました。

これまでの地方議員はインフラ整備や『箱物』建設による都市の拡大化による活性化を図ってきた訳ですが、人口減少社会における地方議員の役割は、労働者人口減による税収減の中、限られた財源を何に使うのか『選択と集中』の決断ができません。



今までのような『俺の町だけ良ければよい』などと考える政治家は『子孫に借金』を残すだけの最悪の未来を招くだけとなります。



まだやれる、行政改革！

行政コスト削減と言う意味からの行政改革が叫ばれる様になって20年あまり、民間委託や指定管理者さらには公務員定数削減など、随分コスト削減が進んできました。

しかし、やろうと思えばまだまだコスト削減できる施策は幾らでもあります。12月の議会では市民生活に密接な街路灯・防犯灯についてコスト削減を提言しました。

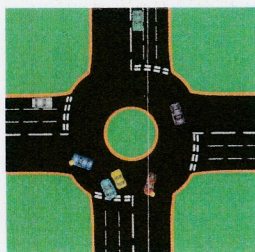
道路を照らす灯りには、市が設置する街路灯と町内自治会で付ける防犯灯があります。今まではその違い一目瞭然でしたが、ここ数年LED街路灯の普及により、まったく同じ性能のもので道路上に混在設置され始めました。



しかしその設置費用はいえれば自治会が付けると2万円、市役所が設置すると7万円と、3.5倍もの値段の差になるのです。この事の詳しい説明は紙面の都合で書ききれません（議会12月ネット録画参照）が、まずは町内のLED防犯灯の交差点分を熊本市が引き取るという良い答弁ができました。また今後入札制度を改善していけば、数千万単位のコスト削減となります。

維持費用軽減の道路整備

人口が10%〜20%と減ってきますと車も減ります。当然道路の車線を減らすことや信号を廃止（他都市では始めています）することになってきます。その時に便利が良く安全な交差点があります。百年も前にイギリスでスタートし、現在では欧米の至る所で見られるラウンドアバウト円形交差点のことです。（図参照）

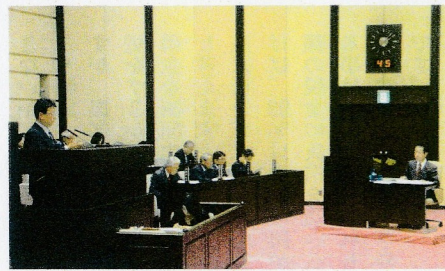


ラウンドアバウトは信号無し

私もバリの凱旋門の世界最大の円形交差点を走って見ましたが、12放射道路で9車線程有りますので、最初は少し不安です。しかし4・5回走れば慣れてしまいます。（グーグルマップで見れます）まあ、日本で作るとするなら1・2車線の円形交差点となりますので、何ら問題は無く右折が

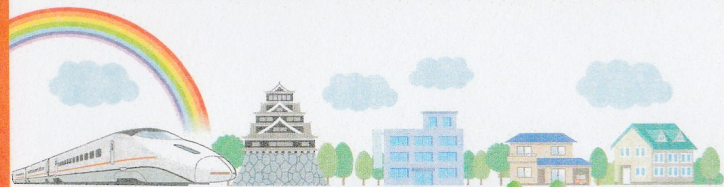
ありませんので安全で効率的でしかも経済的です。12月議会で提案しましたら早速調査に入っています。また車の車線が減りますので自転車道・自転車レーンの設置も提案しましたら出来る所から取り組むとの答えが有りました。市民が自転車を利用すれば、健康増進で医療費や保険料の節約にもなり一石三鳥にもなる訳です。

次号では12月議会中に、大西市長へ提案した『黒字経営のMICE関連』について、お話しします。



大西新市長に各政策を提案、質問

MICEはコスト削減すべき!!



熊本市議会議員(7期)
第44代 議長歴任

落水きよひろ

●昭和31年 花園生まれ・花園小・京陵中・東海大二高・東海(九州)大学卒業
●野田たけし代議士秘書7年勤務、熊本市議連統7期当選、H6年市長選出馬